

五稜会病院の復職支援プログラム “リワーク ヴィレッジ”における 双極性障害への対応について

医療法人社団 五稜会病院
○清水陽平、松田慎子、吉村美香
富永英俊、中島公博、千丈雅徳

平成25年7月7日：第123回北海道精神神経学会

五稜会病院における 復職支援デイクア“リワーク ヴィレッジ”

- 2007年5月から開始
- 気分障害を対象とした職場復帰と再発・再休職の防止を目的としている
- 集中力の向上、体力の回復、生活リズムの安定、再発予防に向けた教育などを、治療の柱としている
- 休職者だけでなく、離職者も対象としている
- これまでに復職希望者(休職者)95名中、72名(約76%)が復職に至る。
- 双極性障害と診断されている利用者は全体の約2割(通所中の診断名変更を含む)

双極性障害を対象とすることの メリット

ーメリットー

- ① 集団の場であることや、観察時間が長くなることにより、気分や行動量の変化が見えやすい
→ 診察室では見られなかった軽躁状態が明らかになることがある
- ② 職場での様子が再現されやすい
→ 軽躁状態を呈した場合、職場で同様のことがなかったかについて振り返る機会になる

徳倉、尾崎(2012) 臨床精神医学 Vol.41 『リワークプログラムにおける双極性障害の扱い』より一部抜粋

双極性障害を対象とすることの 困難性

ー困難性ー

- ① 症状による他利用者への影響
→ 活動量の増加や気分高揚による高圧的な態度、過干渉により、関係悪化、治療の中断につながる
- ② 症状の回復と軽躁状態の区別の難しさ
→ 自覚しづらく、周囲から見ても判断が難しい

徳倉、尾崎(2012) 臨床精神医学 Vol.41 『リワークプログラムにおける双極性障害の扱い』より一部抜粋

➡ 早期発見・早期介入を目指す取り組み

当院で行ってきた支援の工夫①

<疾患教育の内容変更>

うつ病(抑うつ症状)を中心とした内容



うつ病(抑うつ症状)+躁症状に関する内容

ーポイントー

- ・「もしかしたら？」と思うようなエピソードがあれば、主治医やスタッフに報告してもらうよう説明
- ・家族の視点も重要であるため、協力を依頼

当院で行ってきた支援の工夫②

<スタッフのアセスメント強化と連携>

経過の中での変化をスタッフ間でも細かくチェック
抑うつ状態からの回復か躁症状かを検討

ーポイントー

- ・活動量の変化(外出、買い物、運動量など)
- ・発話量(朝のミーティング、プログラム時)
- ・気分の変化(イライラ、怒りの表出方法)
- ・周囲(家族、スタッフ、他利用者)への要求の増大

